

令和4年度 第1回地域包括支援センター運営協議会 会議要旨

開催日時：令和4年8月31日(火)13:30～14:30

開催場所：多治見市役所駅北庁舎4階大会議室

出席委員：山田隆司委員、大村政治(後藤達彦委員代理)、井澤賢禄委員、加藤元子委員、山田佐夜子委員、和田幸恵委員、加藤英治委員、長江一鶴代委員、櫻井きよみ委員

欠席委員：樋田 安美 委員

事務局：加藤福祉部長、加藤高齢福祉課長、大中博、丹羽智裕、三宅かおり、前原友美、包括支援センター(高木浩二、国立美保、近藤加代美、関谷早苗、高橋加代子、水野千鶴子、棚瀬民依)

資料：(1)令和3年度事業報告書 資料1-1 (2)事業報告(詳細) 資料1-2 (3)令和3年度収支決算書 資料1-3 (4)多治見市地域包括支援センター自己評価表 資料2-1～6 (5)令和4年度介護予防ケアマネジメント業務委託契約事業所 資料3

－会議要旨－

1. 部長挨拶

地域包括支援センターは地域包括システムの中核機関として、地域住民の健康、福祉について様々な活動に取り組んでいただいている。昨年度の活動状況について委員の皆さまに評価いただき、今後のより良い活動に繋げていきたい。

2. 事務局紹介

3. 議事

(1)令和3年度事業報告及び収支決算報告 <事務局>資料1-1～3に沿って説明

<会長> 以上の説明について、何かご質問やご意見はありますか。

<委員> ケアマネの相談について、包括によって件数に差がみられるが、地域差があるのか、どのような事に困っているのか。

<包括> 処遇困難な事例への対応についてもあるが、南姫は老人センター内にあることからケアマネの出入りも多く、気軽に相談できる環境であることも大きい。

<包括> 圏域のケアマネと定期的に会議を実施する等、関係づくりに心掛けていることも要因だと考える。

<委員> 収支について、長期的な事業継続の観点でみるとマイナス決算であることは避けなければならない。企業努力が必要ではないか。

<包括> おっしゃる通りである。昨年度は職員の退職が重なったため、退職金の支出が多かったことも要因であるが、企業努力をしていきたい。

<委員> 雇用面で、安心して働く上で退職給付金は大切であるが、その備えはどのようにしているのか。

<包括> 共済会等への退職金積み立てをしている

(2) 令和3年度地域包括支援センターの評価 <事務局>資料2に沿って説明

<会長> 以上の説明について、何かご質問やご意見はありますか。

<委員> 全体的に大変努力されており、センター間の差がなくなってきた。各事業において創意工夫をし、地域に合わせた活動になっていると感じた。地域整備事業についてはどのように実態把握をしているのか。

<包括> 定期的な地域の会議に出席し、ニーズや課題を見出している。

<委員> 事務局評価欄の記載について、「〇〇に期待」と表記されているが、課題については強化して取り組み、新規事業については更に拡充して欲しいという意味なのか。

<事務局> その通りである。

<委員> 北栄包括の立ち上げから見てきているが、当初は包括を周知することが大変だったと思う。現在は土日対応など積極的に活動をされ、他包括との差が無くなっていると感じる。笠原包括について、民生委員からの相談が多いという事であるが、特定な委員からの相談が多いのか、また、どのような相談が多いのか。

<包括> 本人、家族が相談できないケースで独居、介護サービスの必要性がある、健康状態の悪化等が多い。包括が住民にとって身近な民生委員に相談し、同行訪問してもらうこと等、ケースバイケースであるが、民生委員との連携は重要だと思っている。

<会長> 自己評価において課題とされたことについて、解決できることを期待します。

(3) 令和4年度介護予防マネジメント業務委託契約事業所 <事務局>資料3に沿って説明

<会長> 以上の説明について、何かご質問やご意見はありますか。

<委員> 質問、意見なし

<会長> 全体を通して何かご意見はありますか。

<委員> 質問、意見なし

<会長> ご意見がありませんので、以上をもって第1回の会議は終了します。